人権尊重啓発作品の紹介

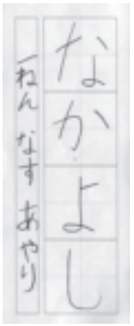
市内の小中学生からご応募いただいた612点の人権尊重啓発作品の中から、入選作品が決まりましたのでご紹介します。
どの作品にも人権の大切さへの思いが込められています。今後、これら作品に込められた思いをみなさんに届けていきたいと思います。

最優秀賞

【ポスターの部】
柴田　奈緒（長浜南小６年）

田邉　剛史（北中１年）

【書写・硬筆の部】
那須　絢莉（湯田小１年）



【書写・毛筆の部】
筑田　祥永（長浜北小５年）

中尾　静（南中２年）

【標語の部】
岩﨑　優佑（北郷里小４年）

声かけよう
一人ぼっちの　友だちに

荻下　早紀（浅井中３年）

わかってる？
見て見ぬふりも　いじめだよ

【詩の部】
北村　英山（長浜南小５年）

「夜空の星」

明るい星があれば
暗い星もある
でも
みんな星に変わりはない

明るい星は
明るいけれど
暗い星は
暗いけれど
それがあるから
たがいに
きれいに見える

みんな夜空で光っている
明るさなんて関係ない
自分らしさを出せばいい

せいいっぱい
光っているぼくを
見てもらえばいい

【作文の部】
岩﨑　麻友（七尾小６年）

「人にやさしく」

木野　葵（東中３年）

「大切なこころ」

以上、敬称略。くわしくは、長浜市人権尊重都市推進会議事務局《市人権施策課内》（☎㊃６５６０・FAX㊃８５５５）へ。

優秀賞

【ポスターの部】
太和田　佑（神照小５年）
奥長　真紀（上草野小６年）
西澤　知郁（西中１年）
中橋　愛（北中２年）

【書写・毛筆の部】
黒井　理史（長浜北小２年）
小川　瑞（神照小６年）
鹿山　瑞稀（南郷里小３年）
水長　恵梨（東中１年）
井関　祐希（東中１年）
影山　実紀（東中１年）

【書写・硬筆の部】
佐野　華乃香（長浜小３年）
中川　雄貴（長浜南小４年）
名内　麻実（北郷里小６年）
東野　美香（東中３年）
上田　海斗（南中１年）

【標語の部】
伊藤　慎也（びわ北小４年）
中川　実紅（下草野小４年）
清水　佑介（南中３年）
早﨑　美温（東中１年）

【詩の部】
松井　まどか（びわ北小１年）
森　直貴（北郷里小５年）

【作文の部】
赤井　美沙希（びわ南小６年）
小八木　絵里（北郷里小５年）
川﨑　香織（南中３年）
小西　黎（西中２年）

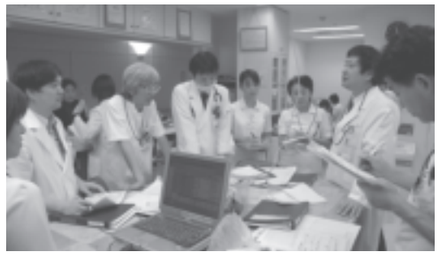
お元気ですか

患者さんを栄養面でサポート
～適切な栄養療法に専門チーム～

市立長浜病院では、栄養状態がよくない患者さんに適切な栄養療法を行うため、医師、看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士等で栄養サポートチームをつくり、連携した治療と栄養指導を行っています。

適切な栄養療法を

栄養状態がよくないといっても、病気で食欲がない、食べ物を飲み込めない、消化器の疾患で栄養を吸収できないなど、原因や状態はさまざまです。



チーム内での情報・意見交換

メンバーで患者さんを回診、経過をチェック

栄養状態の改善には口から必要な栄養を摂ることが望ましいのですが、どうしても困難な場合には、患者さんに負担をかけない最善の方法を選択する必要があります。

そのため、“胃ろう”などの経管栄養や点滴といった方法に加え、口から摂取できるようにするにはどうするのか・どんな栄養剤を使用すれば効果があがるかなど、栄養学・薬学・看護学を含めた様々な角度から検討する必要があります。

栄養面から患者さんをサポート

チームでは、患者さんの栄養状態や症状をチーム内で共有した後、定期的な回診を通して最善の治療を検討しています。また新しい治療法や薬などの情報を共有化し、より効果的な治療を心がけています。

栄養状態が悪いと、病気や傷が治りにくいだけでなく、床ずれなどの合併症を起こしやすくなります。つまり、栄養状態を改善することは、患者さんの治療効果を一層高めることにつながります。栄養サポートチームは、栄養面から患者さんをサポートしていきたいと考えています。

我慢していませんか？
手首、指の付け根の痛み

市立長浜病院形成外科
中　村　哲　郎 先生

長浜の方は、我慢強い方が多いように感じるのは、私だけでしょうか？

大ケガをした記憶がないのに、手首(手関節)が痛い。骨折して治ったのに手首が痛い。普段は気にならないけど、ある動作をすると手首が痛い。でも病院に行くほどでもないし、ということはありませんか？放置して、あまり影響がない場合もありますが、そのままにすると、関節の骨、軟骨が変形して戻らなくなる変形性関節症になる場合もあります。

原因はいろいろあります。知らない間に骨が溶けて潰れてくる状態、靱帯軟骨が傷んでいる状態、腱鞘炎の一種などなど。

診断は、従来の診察に加え、関節鏡といって、ほんの５mmぐらいの穴から、小さなカメラを手首の関節に入れて、直接、中を見ます。必要があれば、その穴から手術もできるので、大きな傷が残らない治療を行えます。膝や肩で関節鏡検査、手術を受けられた方も多いと思います。手の関節鏡は、さらに小さな穴で、診断、治療が行えるようになってきていますので、我慢しないで受診してください。